

7月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

よく、保護者からの相談で子どもからの様々な欲求に対して、どこまで応えてあげたらいいのか？と質問を受けます。子どもが言うがまま、すべてに伝えてしまうと自分では何もできない子になってしまうのではないかと欲求に対して、自分の力で節制する力も身に付かないのではないかと。そんな思いで、ついつい子どもからの欲求を拒否することも日常生活ではよくあるのではないかと思います。

幼稚園でもよく職員室にケガをして治療して欲しかったり、コップなどを忘れて貸して欲しいとやってくる子どもたちがいます。しかし、初めてそのような場面に出会った子どもたちは、職員室に入るまではできても、何も言わずボーッと立ったままいることが多くあります。対応する先生たちもきっと何か困ったことがあったんだろうな。と予測はすぐに立つのですが、あえて何も言いません。子どもたちからの困った時に対する動き出しを待ちます。

「コップ！！」と勇気を持って発した言葉に、「コップがどうしたの？」と返答。「コップ忘れた」との言葉に、「そっかあ、コップ忘れたんだね。それでどうしたいの？」と。「コップ貸して欲しい・・・」、ここまで言えたことがとても大切です。コップを忘れたことは大きな問題ではありません。失敗は誰もがするもので、そのリカバリーをどう自分自身で考えて行動に移していかかが、生きていく中でも大切な力です。

しかし、ここまでの経緯を待てずに困っている子どもを目の前にすると、ついつい関わる大人は何に困っているか見当が付き、子どもたちがきちんと言葉で発する前に問題を解消する手助けをすることがあるのではないのでしょうか。それは子どもの欲求に応えたのではなく、大人が主体となった援助、助けとなります。「何も言わなくてもしてくれる。」と勘違いしてしまい、自分自身の力でリカバリーする力は身につけません。「して欲しいこと」、「やって欲しいこと」をきちんと言葉などで表現することがとても大事です。

そして、きちんと子どもたちから発せられた欲求には、できる限り応えてあげて欲しいと思っています。もちろん物的欲求や金銭的な欲求には応えられないケースはあると思いますが、特に幼児期に多いスキンシップなど求める場合は、タイムリーに対応してあげて欲しいものです。その対応で、子どもたちは目に見えない安心と安全を身につけていきます。困った時の拠り所。まさしく無償の愛を受けることができる機会となります。安心と安全を身につけた子どもたちは、そこから自分の力で歩み始めていきます。それが自立です。子どもの甘えに応えるからこそ自立ができるのです。「もうお兄ちゃんだから、お姉ちゃんだから、抱っこはしません」、「もう大きいんだからそんなことは言わないの！！」。ついつい忙しい時、自分に余裕がない時は、そのように伝えてしまうことも多々あると思いますが、子どもたちの甘えは、成長にとっての糧と思って対応できる人でありたいと思います。

【年主題】

『ともにつむぎだす』～希望の中で～

【年主題聖句】

キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、
また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。
(エフェソ信徒への手紙 2章 17節)

7月主題 「やってみる」

聖句 「主よ、朝ごとに、わたしの声を聞いてください。」 (詩編 5編 4節)